

3. スイートコーン（未成熟とうもろこし）

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	とうもろこし (子実)
			収穫30日前まで	3回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アクタラ顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
1	オルトラン水和剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	とうもろこし
15	カスケード乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
9	コルト顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	とうもろこし
1	ダイアジノン粒剤5	散布	収穫14日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)
			収穫60日前まで	2回以内	
1	デナボン粒剤5	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期（但し収穫21日前まで）	2回以内	
3	トレボン乳剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	とうもろこし
28	プレバゾンフロアブル5	散布	収穫前日まで	3回以内	とうもろこし (子実)
			収穫前日まで	3回以内	
28	ベネビアOD	散布	収穫前日まで	3回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	とうもろこし (子実)
		散布	収穫14日前まで	3回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6	アフアーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	とうもろこし (子実)
			収穫30日前まで	2回以内	

・忌避剤（参考農薬）

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
キヒゲンR 2フロアブル	塗沫処理	は種前	1回	とうもろこし

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) とうもろこしは収穫する生育ステージにより農薬登録上は別の作物になるので注意する（表1）。
- 注4) 適用農作物名が「とうもろこし」の場合は備考欄に記載した。また、「とうもろこし（子実）」に登録がある場合は備考欄に記載したので、スイートコーン以外の用途で栽培する際は参考とする。

表1 農薬登録の適用農作物名とスイートコーン、子実とうもろこし、ヤングコーンへの使用可否

適用農作物名	スイートコーン (ある程度成熟した雌 穂を収穫するもの)	子実とうもろこし (種子を収穫するもの、 ポップコーン、製粉用等、 飼料用を除く)	ヤングコーン (幼果(雌穂)を収穫するも の、別名ベビーコーン)
穀類又は雑穀類	○	○	×
とうもろこし	○	○	×
未成熟とうもろこし	○	×	×
とうもろこし(子実)	×	○	×
野菜類	×	×	○
ヤングコーン	×	×	○

○：使用できる ×：使用できない

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
黒 穂 病		1. 発病株は孢子が飛散しないうちに 切り取って焼却するか土中深く埋 却する。 2. 発病の甚しい畑は3年間ぐらい他 作物に転換する。	
すす紋病	全 期	1. 窒素、加里肥料及び堆肥を十分施 す。 [参考農薬] 1. トリフミン水和剤 2,000 倍液を 10 a 当り 100~300 ℓ 散布する。	1. 8月の気象が低温多湿の 年に発病が多い。 2. 8月中旬早期に肥切れす ると発病が多い。
ごま葉枯病		1. すず紋病の耕種的対策に準じる。	1. 高温多湿の年に発病が多 い。 2. 早期に肥切れすると発病 が多い。
倒伏細菌病		1. 無病種子を用いる。 2. 被害の著しい株は抜き取って焼却 する。	1. 排水の悪い圃場に発生し やすいので、排水に務め る。 2. 昆虫の食害による伝染も あり、病勢を進展させる原 因となるので、アワノメイ ガなどの防除を徹底する。
カラス・ハト (は種～ 発芽時の 鳥害忌避)	は 種 前	[参考農薬] 1. キヒゲンR-2フロアブルの原液を 乾燥種子 1kg 当り 20ml、塗沫処理し ては種する。	1. 塗沫処理後の種子は風乾 後には種する。 2. 粘度が高いので良く振っ てから使用する。 3. 水産動物に対して影響が 強いので注意する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アワノメイガ	雄穂出穂始期 ～ 揃 期	1. アグロスリン乳剤、オルトラン水和剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤の1,000倍液、カスケード乳剤、プレバソンフロアブル5の2,000倍液、ベネビアODの4,000倍液のいずれかを10a当り2000散布する。 2. ダイアジノン粒剤5、又はデナポン粒剤5を10a当り6kg散布する。	1. 粒剤は株の上から芯部や葉にかかると均一に散布する。 2. ダイアジノンは葉身の基部に部分的に薬剤が集まると薬害を生ずるおそれがあるので、1ヶ所に固まらないよう均一に散布する。また、葉の水滴が薬害を助長するため、降雨直後や結露がある場合は散布しない。 3. 発生が多い場合は絹糸抽出期に追加防除を行う。 4. アグロスリン、カスケード、トレボンは蚕毒及び魚毒に、プレバソンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 5. プレバソンは水産動物（甲殻類）に影響があるので注意する。
アブラムシ類	雄穂出穂期 ～ 揃 期	1. アグロスリン乳剤2,000倍液、アクタラ顆粒水溶剤3,000倍液、コルト顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤の4,000倍液のいずれかを10a当り2000散布する。	1. 葉裏にもかかる様にていねいに散布する。 2. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、アクタラ、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 3. コルトは水産動物（甲殻類）に影響があるので注意する。
オオタバコガ	絹糸抽出期	[参考農薬] 1. アファーム乳剤1,000倍液を10a当り2000散布する。	1. アファームは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. アファームは魚毒に注意する。